



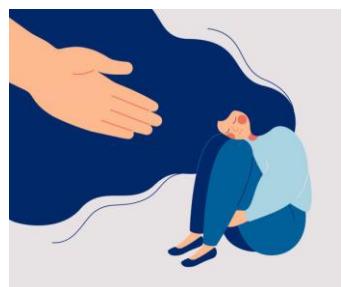
～困難に打ち勝ち、希望の春を迎えましょう～

今年も、あっという間に 2 月末になりました。立春を過ぎ、寒い日もありますが、日差しの暖かさを感じたり、夕方に日が長くなつたなあと感じたりするようになってきました。また、校庭の桜の木を見ると、「つぼみ」を少しずつ膨らませ、確実に一歩ずつ春に向かっているのが感じられます。



ところで、この桜の花が咲くためには、「土」と「水」と「太陽の光」が必要です。けれども、長く咲いている「強い花」になるためには、もう一つ「冬の寒さ」が必要であると言われています。桜は夏から秋にかけて冬眠に入ります。「寒さ」こそが眠っている木の目を覚ませ、その厳しさに打ち勝つ「命の強さ」を作っていくのだと言われています。

今、思春期にある中学生にも同じことがいえるかと思います。暖かい春の光だけでは「強い花」は咲きません。言い換えれば、自分にとって「楽しいこと」や「楽なこと」だけを経験していくは、しっかりととした大人にはなりません。それに先立つ、辛く厳しい「冬の寒さ」のような時期を経験し乗り越えないと立派な花は咲きません。時には、自分にとって耳の痛いことにも耳を傾け、また辛くしんどいことでも我慢する時が必要です。



生徒たちは、一人ひとり素晴らしい才能をもって生まれています。その才能を花咲かせるためにも、優しさと厳しさの両面からの指導が必要であると思います。とくに、3 年生にとって卒業後の進路を控え、本当に辛く厳しい季節です。でも、新たなステージに立つためには、この辛さや厳しさを乗り越えるしかありません。人は困難を乗り越えて成長するものだと思います。どうか、今のこの寒さや厳しさ、そしてコロナ禍にみんなで打ち勝ち、希望の花を咲かせる春にしていきましょう。

(校長 風間 浩)